

森林体験学習活動
安全管理チェックシート

(参加者に子どもが含まれる場合に適用)

一般社団法人
日本森林インストラクター協会

平成 28 年 11 月

目 次

はじめに	2
安全管理チェックシートの活用の前に	3
Ⅰ 企画段階のチェックシート	8
Ⅱ 実施段階のチェックシート	10
Ⅲ 実施当日の運営のチェックシート	14

はじめに

この安全管理チェックシートは、森林インストラクターが学校や子ども会など、参加者に子ども含む森林体験学習を企画または指導する場合を想定して、心がけたい安全管理上のチェック項目を選定したもので、様々な森林体験学習活動において想定されるチェックすべき項目を網羅的にリストアップしたものです。

森林体験学習とは、森林をフィールドとして、組織的、計画的に一定の教育的目標をもって行われる体験活動であり、内容について特段の定めはありませんが、キャンプ、自然観察ハイキング、バードウォッチング、森林内でのゲーム、クラフトづくり、植林や下刈り等の林業体験など多種多様なものが含まれます。

したがって、森林体験学習活動を行う主催者や指導者は、活動の規模、内容、場所、時期などに応じて、このチェックシートを参考として、該当する項目選び、各々の活動にふさわしい活動チェックシートを作成してチェックする必要があります。

なお、このチェックシートは、全国緑化推進委員会連絡協議会及び公益社団法人国土緑化推進機構が2015年8月11日に発行した『子どもたちと森のステキな出会いのために「森林体験学習活動を安全に行うためのQ&A」』の別冊『安全管理チェックシート』を基に必要と考えられる項目を追加し作成したものです。この冊子の作成にあたった検討委員会には、一般社団法人日本森林インストラクター協会も参画し、当協会の安全委員会の委員の意見も参考にして作成されたものです。

▶チェックシートの構成

このチェックシートでは、各シートの冒頭に、以下のように、①記入日、②記入者名、③できなかった項目数の記入欄（本チェックシートは二段）を設けています。

_____年 月 日 記入者名 _____ できなかった項目数 _____

続いて、項目ごとに、チェック欄（）を二つ設けています。

1-1 (チェック内容の記載)

このように、各チェックシートは2回分のチェック用として使用することができるので、違いを比較することによって、問題点の洗い出しや改善措置の検討に役立てやすくなっています。

前述の『子どもたちと森のステキな出会いのために「森林体験学習活動を安全に行うためのQ&A」』と併せて活用してください。同冊子は、国土緑化推進機構の下記サイト

https://www.green.or.jp/news/news-green-fund/green_fund_entry_914/

に全文が公開されていますので、これを参照してください。

また、森林体験学習のうち、森林内での間伐体験や下刈り、枝打ち作業の体験活動を行う場合は、作業種ごとに、別途、上記のサイトにある「森づくり作業安全管理チェックシート」を参考としてください。

***** 安全管理チェックシートの活用の前に *****

安全管理チェックシートの活用に当たり、活動を安全に行うための基本的な事項を確認しておく必要があります。以下は、2016年11月1日発行の日本森林インストラクター協会会報127号P5~7からの引用です。上記サイトの『子どもたちと森のステキな出会いのために「森林体験学習活動を安全に行うためのQ&A」』の要点を解説したものです。森林体験学習活動の企画並びに実施にあたって、ご確認をお願いします。

(以下、日本森林インストラクター協会会報127号より)

子どもたちの森林体験学習活動の大切さについて (安全委員会・事務局)

▶なぜ森林体験活動か

学習活動をするのは、自然の中に身を置くことであり、危険に遭遇する可能性を常に孕んでいます。にもかかわらず、なぜ、森林の中で子どもたちに森林体験学習をする機会が必要なのでしょう。それは、子どもたちと森のステキな出会いが必要だからであるということです。このことが前提であることを、しっかりと再認識することが大切です。

子どもたちは、森林の中で体をうごかすことを通じて、心地良い汗をかき、楽しさや爽快感などを味わうことができます。同時に、活動を通じて、友人たちと協力し合うことの大切さやその方法、あるいは、自然の力の大きさや活動に伴う危険性と自分の身を守る術を体得できるなど、子どもたちの「生きる力」を育むことが考えられています。

▶森林体験学習とは

森林体験学習活動とは、「森林」をフィールドとして行われる「体験活動」であること、主催するものが、組織的、計画的に行う者であって一定の教育的な目標を持っていることが要件となります。

具体的な活動の内容については、特段の定めはありませんが、キャンプ、自然観察ハイキング、バードウォッチング、各種ネイチャーゲーム、鳥の巣箱などクラフトづくり、植林や下刈り、間伐等林業体験、炭焼き体験など多種多様なものが含まれます。

子どもたちが森の中で行う活動には、程度の差はあっても教育的な意義が含まれているものと考えられますが、主催団体などが活動の目的として教育的な意義を意識して行われるものを森林体験学習活動



と呼ぶこととします。

様々な体験活動：『子どもたちと森”のステキな出会いのために』より引用

▶森林体験学習活動によって期待できる効果

森林は、樹木をはじめ多様な動植物が相互の関わりの中で生命活動を営んでおり、これらを取り巻く水・空気・土などの多様な要素とともに形成されたひとつの生態系であり、極めて優れた環境教育の場であると考えられます。

すなわち、森林体験学習活動においては、様々な状況において、子どもたち自らが判断し、行動することにより、新しい発見や驚き・感動を味わうことができること、自らの行動で体験し学んでいくことにより、子どもたちの生きる力が育まれることが期待されます。

また、実際の体験活動に裏打ちされることにより、知識の広がりや深みが生まれ、その経験が日常生活態度に実感をもって組み込まれることが可能となるというような波及効果が考えられます。

▶子どもたちに木を伐らせる活動を行うこと

自然やあらゆる命を大切に思う心を育むという教育的な観点があり、また、世界の森林面積の減少が地球温暖化の原因になるなど深刻な環境劣化が懸念される中で木を伐る体験活動は、その直接的な原因である森林の伐採を容認することにつながると批判される場合があります。

木を伐る活動を子どもたちに行わせることは、木材が再生産可能な資源であり、木材が環境負荷の少ない資源であることを子どもたちに理解させ、命の大切さと同時に自然と人間の共存のあり方などに目を向けさせることなどを目的に行うものです。

子どもの発達段階に応じて、木を伐採する行為を通じて自らの頭で考え、答えを導き出すことができるような学習プログラムを準備することが重要です。例えば、間伐体験の前に、よく手入れされた人工林と放置された人工林を見せて、その違いについて、子どもたちに考えてもらうことができれば、体験活動がより一層森林を理解する機会につながると考えられます。

主催者の役割、指導者の役割、学校関係者との連携&子どもの特性（安全委員会・事務局）

▶はじめに

子どもたちの森林体験活動について、森林インストラクターは、時に応じていろいろな立場にたちまします。子どもたちの安全を確保するため、活動に関わるいろいろな立場の人が、立場に応じて分担協力することが必要です。

主催者と指導者という一般的な立場の区分だけでなく、例えば、林間学校などの学校における特別活動の場合は、主催者と現場指導者及び参加者（子どもたち）、学校や保護者が関わり、緊密に連携協力することが大切となります。

▶現場活動における安全管理の3本柱

事故の事例を検証すると、その9割以上が、「現場活動における安全管理の3本柱」が徹底して行われていなかったことや指揮命令系統が不正確だったことに起因しています。

（1）事前の下見

下見の結果に伴い必要に応じて計画案を修正する。

(2) 天候判断

最新の気象情報をインターネット等で収集するとともに、実施地域に伝えられている観天望気の情報に配慮するほか、現地に精通した指導的立場の人の観天望気を参考に判断する。

(3) 現場説明（セーフティートーク）

活動内容を参加者に周知し、参加者の様子を確認する。

▶安全確保のための企画段階におけるポイント

上記の安全管理の3本柱を徹底することと同時に、企画段階において、是非必要な心構えとして次の4項目が考えられます。

(1) 余裕をもったプログラム

プログラムは無理がなく余裕をもったものとし、活動の目的・内容・対象者を明確にし、それにふさわしい場所・時間・指導者・施設・機材などを準備し活動プログラムを構成する。

(2) 下見はスタッフ全員で行う

活動プログラムを立てるに当たっては、必要に応じて、複数回の下見を実施することも考慮し、実施日に近い日のできるだけ実施条件に近い状況において、当日のスタッフ全員で行うことが望まれる。

(3) 事前説明会等により信頼関係の構築

学校行事などの規模の大きな活動では、参加者や保護者に対して活動に関する様々な情報を伝える必要があります。このため、事前説明会を開催し、活動の趣旨やリスクとその対処方法の説明を行い、様々な懸念や不安を除き、信頼関係を作り上げる努力を行うことが必要です。

(4) スタッフの力量を最大限に発揮する

安全にプログラムを実施するためにスタッフの力量を最大限に発揮することが必要。このため、統括責任者、プログラムの指導や進行を担当するスタッフ、参加者の安全や生活指導を担当するスタッフ及び支援する裏方の人材、人数を確保し、役割分担と連携体制を十分確認します。

▶子どもの特性に応じて留意すべきこと

事故にかかわる過去の判例では、子どもの特性を考慮したかどうか争点とされています。

子どもは危険予知能力が相対的に低い「危ない」というだけでは注意したことにはならず、どのようなところに危険が潜んでいるのか見つけてやり、それを回避する方法を教えることが必要です。

また、森林の中での子どもたちの行動は予測しがたく、野外活動における子どもの死亡事故で多いのは、子どもが目の届かないところへ行ってしまいういわゆる「子どもの見失い」といわれています。主催者や現場指導者は、事前の下見や危険予知訓練等により、「見失い」を防止する指導方法や行動特性を捉えた事故の防止に留意する必要があります。

子どもの危険予知能力は、経験によって獲得していく側面もあることから、自分の身は自分でまもろうとする意識をもたせることも必要です。例えば、刃物も危険だから使わせないのではなく、正しい使い方を伝えたいうえで刃物を使った活動を行うことが必要といえます。

活動団体にとって安全マニュアルとチェックシートは必須！（安全委員会・事務局）

▶安全管理チェックシートとは？

今回、編纂された『森林体験学習活動を安全に行うためのQ&A』には、別冊の『森林体験学習活動・森づくり作業 安全管理チェックシート』が付いています。

安全管理チェックシートとは、活動を実施する際に、企画づくりから実施後の評価まで、各プロセスの各段階において、安全を確保する観点から必要な事項をリスト化し、それぞれについて実施状況の確認（チェック）を行えるように取りまとめたシートのことです。安全管理チェックリストということもあります。

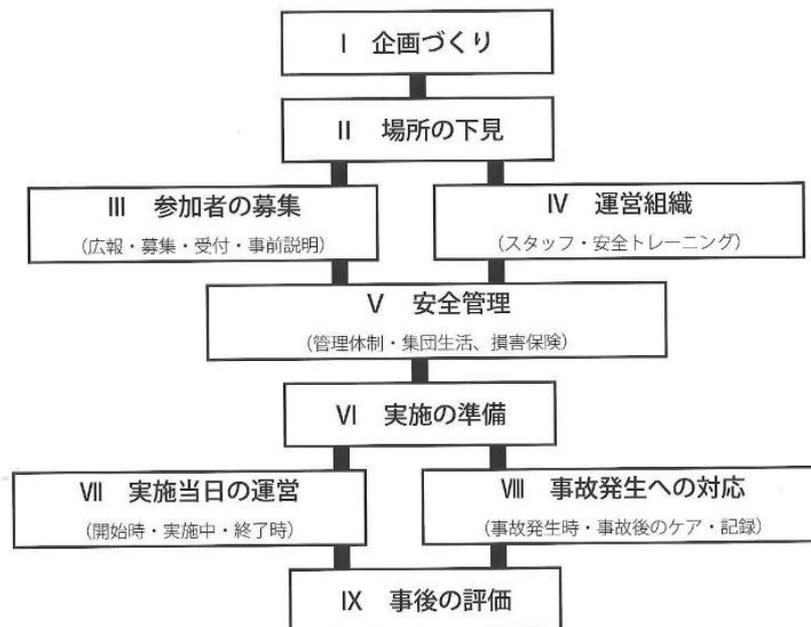
▶安全管理チェックシートの構成

近年、森林インストラクターの活動は、企画内容、場所、形態、対象も子どもたちから高齢者まで、極めて多岐にわたっています。

総括的なリスク管理マニュアルだけでなく、活動の種別ごとに、安全管理チェックシートを是非、準備し活用することが必要といえます。

そして、これらのマニュアルやチェックシートは、継続的に見直し、活動団体やグループでしっかり共有することが大切です。

安全管理チェックシートの構成



上記のチェックシートの構成例では、9項目の構成（※）を示しています。マニュアルとチェックシートに該当するものは、**活動の実態に合わせて作成することが大切です。**

（※）本チェックシートでは、上記の9項目を次の3段階の項目にまとめて区分しています。

- I 企画段階のチェックシート
- II 実施段階のチェックシート

Ⅲ 実施当日のチェックシート

▶チェックシート作成上の重要項目

各チェックシートに①記入日、②記入者名、③チェック欄を記入する。

1. 企画づくり

- ・意図や目的が明確であること
- ・関連する法令を遵守しているかなど

2. 場所の下見

- ・集合場所は分かりやすく安全な場所か
- ・危険の予測、分析、対処の方法
- ・携帯電話の通話範囲確認
- ・トイレの状態
- ・倒木・枯れ木・落枝の危険性の確認など

3. 参加者の募集

- ・関係者（現地の管理者・市町村などを含む）に活動内容を周知しているか
- ・傷害保険の加入告知
- ・必要装備・活動のリスクについての告知
- ・天候によるプログラム変更の告知
- ・募集にあたってのトラブル問合せ先
- ・参加者名簿を作成しているかなど

4. 運営組織

- ・スタッフの人材・人数は適切か
- ・危険予知訓練が可能な人材はいるかなど

5. 安全管理

- ・子どもの活動の場合の場合は、子どもの特性に配慮して作成するなど

6. 実施の準備

- ・活動前のスタッフミーティング
- ・天候による活動変更の決定連絡体制など

7. 実施当日の運営

- ・スタッフと参加者のコミュニケーション
- ・危険個所の説明と危険個所での再度説明や対応など

8. 事故発生の場合の対応は迅速、誠実になど

9. 事後のヒヤリ・ハットの分析・改善策など

I 企画段階のチェックシート

森林体験学習活動安全管理チェックシート（企画づくり）

年 月 日 曜 記入者名 できなかつた項目数

年 月 日 曜 記入者名 できなかつた項目数

- 1-1 活動の意図や目的が明確になっていますか
- 1-2 参加者の対象範囲が明確になっていますか
- 1-3 活動目的にふさわしい活動内容になっていますか
- 1-4 活動目的にふさわしい活動フィールドですか
- 1-5 実施責任者や担当者が決められていますか
- 1-6 関係者や地元の協力が得られていますか
- 1-7 わかりやすい企画書になっていますか
- 1-8 収支計画がきちんと立てられていますか
- 1-9 関連する法規などを遵守していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（場所の下見）

年 月 日 曜 記入者名 できなかつた項目数

年 月 日 曜 記入者名 できなかつた項目数

- 2-1 実施日における交通機関ダイヤを確認していますか
- 2-2 集合場所はわかりやすい、かつ安全な場所となっていますか
- 2-3 案内地図と現地の状況は一致していますか
- 2-4 休憩施設や休憩地点は、安全な場所となっていますか
- 2-5 スズメバチ、マムシ、クマなどの危険な動物の有無を確認していますか
- 2-6 ウルシ、ハゼノキなどのかぶれる毒性の強い植物の有無を確認していますか
- 2-7 野生動物による農作物・林業被害防止等のための狩猟活動や罠の仕掛け、電気柵の有無を確認していますか
- 2-8 活動プログラムの所要時間を確認していますか
- 2-9 携帯電話の通話範囲を確認していますか
- 2-10 水の補給地点を確認していますか
- 2-11 避難施設を確認していますか
- 2-12 エスケープルートを確認していますか

- 2-13 活動を行うための十分な広さと危険物が無いことが確保されていますか
- 2-14 トイレの所在とその使用状況を確認していますか
- 2-15 臨時のトイレを設置する場合、その場所を決めていますか
- 2-16 最寄りの救急病院、診療所などの医療施設を確認していますか
- 2-17 地元の関係機関（役場、警察、消防署など）に届け出ていますか
- 2-18 救命、救急連絡先（電話番号など）を確認していますか
- 2-19 活動場所の管理者又は所有者の使用許可をもらっていますか
- 2-20 案内板、道標などの案内施設は正しく表示されていますか
- 2-21 山歩きの場合、迷いやすい分岐路やけもの道などを確認していますか
- 2-22 保安施設（杭、柵、ロープなど）に異常はありませんか
- 2-23 落石、崩落、雪崩などの危険性などについて確認していますか
- 2-24 倒木、枯れ木、落枝などの危険性などについて確認していますか

II 実施段階のチェックシート（企画の実施は募集から始まる）

森林体験学習活動安全管理チェックシート（参加者の募集—1）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（広報）

- 3-1 わかりやすい、関心を惹く募集パンフレットになっていますか
- 3-2 組織の関係者に活動の目的や内容が周知されていますか
- 3-3 市町村、関係団体などに広報のための募集要項を届けていますか
- 3-4 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミ機関に知らせていますか
- 3-5 その他、あらゆる方法で集客の努力をしていますか

（募集・受付）

- 3-6 募集パンフレットには、募集要項（名称、目的、期間、場所、募集人員、応募資格、集散場所、集散時刻、宿泊先、参加費、申込方法等）が記載されていますか
- 3-7 活動プログラムの内容を知らせていますか
- 3-8 天候等により活動プログラムの中止・変更がありうることを知らせていますか
- 3-9 申込者の連絡先（日中連絡がとれる電話番号など）を把握していますか
- 3-10 活動プログラムを指導する講師を知らせていますか
- 3-11 参加者の服装、持ち物などの情報を知らせていますか
- 3-12 参加のキャンセル方法について知らせていますか
- 3-13 傷害保険への加入について知らせていますか
- 3-14 参加できる健康状態について知らせていますか
- 3-15 体験活動上のリスクについて知らせていますか
- 3-16 参加者の健康状態（蜂アレルギー・食物アレルギーの有無なども）を把握していますか
- 3-17 健康チェックシートを提出してもらうことを主催者から知らせていますか
- 3-18 持病がある場合、医師の診断書が必要なことを告知していますか
- 3-19 必要に応じて保護者の同伴を求める場合があることを知らせていますか
- 3-20 子どもの場合、保護者の参加同意書が必要なことを、主催者から知らせていますか
- 3-21 募集に当たってのトラブル、問い合わせに対応する責任者を決めていますか
- 3-22 参加者名簿（氏名、住所、保護者名、連絡先など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（参加者の募集—2）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（事前説明会）

- 3-23 主催者が事前説明会の資料を作成していますか
- 3-24 スタッフ、指導者の紹介をしていますか
- 3-25 説明スタッフの役割分担（目的・予定説明、注意事項、安全管理など）ができていますか
- 3-26 活動の目的をわかりやすく説明していますか
- 3-27 交通機関、所要時間、集散場所、集散時刻等について説明していますか
- 3-28 活動内容やスケジュールについて説明していますか
- 3-29 自然体験のリスクについて説明していますか
- 3-30 安全管理の体制について説明していますか
- 3-31 傷害保険の加入について説明していますか
- 3-32 服装と携行するものについて説明していますか
- 3-33 天候等が変わった場合の代替プログラムについて説明していますか
- 3-34 中止の場合の連絡方法について説明していますか
- 3-35 参加できる健康状態について説明していますか
- 3-36 個人情報目的外には使用しないことを説明していますか
- 3-37 参加同意書について説明していますか
- 3-38 出発前までの健康管理や生活習慣について説明していますか
- 3-39 キャンセル方法について説明していますか
- 3-40 参加費（宿泊費、食事代、交通費、保険料など）について説明していますか
- 3-41 シャツ、ズボン、手袋、靴、帽子など服装について説明していますか
- 3-42 ザック、雨具、水筒など携行する装備について説明していますか
- 3-43 参加できなかった保護者に対して、事前説明会の資料を、主催者から届けていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（運営組織）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

- 4-1 全体を統括する責任者を決めていますか
- 4-2 活動規模に対してスタッフ数は足りていますか
- 4-3 プログラムの進行を担当するスタッフがいますか

- 4-4 スタッフの役割分担を決め、その記録をとっていますか
- 4-5 森林の生態系について解説できるスタッフがいますか
- 4-6 地形図とコンパスが使えるスタッフがいますか
- 4-7 歩き方の指導ができるスタッフがいますか
- 4-8 生活指導ができるスタッフがいますか
- 4-9 気象情報を読めるスタッフがいますか
- 4-10 危険な生物への対処ができるスタッフがいますか
- 4-11 活動に使用する装備や道具の使い方がわかるスタッフがいますか
- 4-12 無線機などの通信機器が扱えるスタッフがいますか
- 4-13 危険予知トレーニングなどの講習を受けたスタッフがいますか
- 4-14 救助・救命措置ができるスタッフがいますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（安全管理－1）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（安全管理体制）

- 5-1 参加者の健康状態を主催者が把握していますか（子どもの宿泊を伴う場合は生活習慣も）
- 5-2 時間的な余裕を持たせたスケジュールとなっていますか
- 5-3 季節に適合した活動プログラムとなっていますか
- 5-4 岩場、湖沼など人命にかかわる危険な場所を点検していますか
- 5-5 危険な活動に対応する装備を準備していますか
- 5-6 最新の気象状況を把握できる準備ができていますか
- 5-7 緊急時のエスケープルートが確保または検討されていますか
- 5-8 安全の行動基準（中止・変更など）が作成されていますか
- 5-9 活動場所の近くに避難できる施設や場所を確保していますか
- 5-10 事故発生時の行動チャートやマニュアルを作成していますか
- 5-11 事故発生時のスタッフの役割が周知されていますか

（集団生活：宿泊を伴う場合）

- 5-12 子どもたちに「自分のことは自分です」という姿勢をもたせるよう指導していますか
- 5-13 集団生活上のルールについて周知していますか
- 5-14 寝室、浴室、トイレ、避難路などの施設について説明していますか
- 5-15 食事の時間、内容は適切になっていますか
- 5-16 就寝時間や起床時間が周知されていますか
- 5-17 参加者の健康状態（発熱など）をチェックしていますか

- 5-18 部屋の清掃、ゴミの処理、身支度などについて指導していますか
- 5-19 共同生活上の悩み事を話せる状態が作られていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（安全管理—2）

年	月	日	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	記入者名	できなかった項目数

（損害保険）

- 5-20 参加者は傷害保険に加入していますか
- 5-21 スタッフは傷害保険に加入していますか
- 5-22 主催者は賠償責任保険に加入していますか
- 5-23 宿泊を伴う活動の場合、旅行保険に加入していますか
- 5-24 自動車を使用する場合、自動車保険に加入した車両を使っていますか
- 5-25 保険会社（代理店）に相談する人がいますか
- 5-26 保険金額、免責事項が分かっていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施の準備）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

- 6-1 スタッフ用の活動マニュアルを作成し、説明していますか
- 6-2 活動前のスタッフミーティングを行い、その記録をとっていますか
- 6-3 下見情報をスタッフ全員で共有していますか
- 6-4 天候による実施可否の判断と連絡体制を整えていますか
- 6-5 荒天時の代替プログラムの実施体制を確認していますか
- 6-6 スタッフに最新の気象情報を伝えていますか
- 6-7 スタッフに最新の交通情報を伝えていますか
- 6-8 スタッフの健康状態を確認していますか
- 6-9 実施体制に変更がある場合、スタッフにその情報を伝えていますか
- 6-10 受付の準備は整っていますか
- 6-11 新聞、テレビなどの取材がある場合、対応者を決めていますか
- 6-12 器具を使用する場合、器具の作動状況を点検していますか
- 6-13 救急用品の内容を点検（使用期限のチェックを含む）していますか
- 6-14 救助、救命のための装備を点検していますか

Ⅲ 実施当日の運営のチェックシート

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営－１）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（開始時）

- 7-1 参加者名簿に基づき、参加者を確認していますか
- 7-2 遅刻者に対する対応策がとれていますか
- 7-3 スタッフや関係者を紹介していますか
- 7-4 プログラムの目的や行動予定をわかりやすく説明していますか
- 7-5 当日歩く場所の地図を参加者に渡して説明していますか
- 7-6 スタッフと参加者とのコミュニケーション作りをしていますか
- 7-7 グループの編成は適正ですか
- 7-8 当日の健康状態が優れない参加者への対応は適切ですか
- 7-9 宿泊を伴う場合、集団生活の注意事項をわかりやすく説明していますか
- 7-10 参加者の健康状態を確認していますか（子どもの場合、体温、食欲、排便、睡眠など）
- 7-11 上着、ズボン、靴、帽子などの服装を点検していますか
- 7-12 雨具、水筒、手袋などの携行品を点検していますか
- 7-13 活動エリア内の危険個所について説明していますか
- 7-14 「自分の安全は自分自身で守る」ことを納得させていますか
- 7-15 移動中の経路の安全確認は十分ですか
- 7-16 携帯する水筒には、傷の洗浄用を兼ねて、水道水を入れてありますか
- 7-17 出発までに用便を済ませるよう知らせていますか
- 7-18 準備体操やアイスブレイキングの実施などにより不必要な緊張や懸念を取り去っていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営－２）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（実施中）

- 7-19 統括責任者は、グループ全体を常に把握していますか
- 7-20 スタッフは、活動プログラムを適切に指導していますか
- 7-21 プログラムに対する参加者の反応を把握していますか
- 7-22 道具の使い方を適切に指導していますか
- 7-23 危険な場所にはスタッフを配置していますか

- 7-24 危険な個所では、その都度注意を喚起していますか（濡れた木道や排水溝の鉄の格子蓋、緩い下り坂で転倒骨折の事例がある）
- 7-25 天候の変化などに応じて柔軟に対応していますか（危険と判断したら計画を変更または中止する）
- 7-26 危険な個所を発見したとき、他のグループに伝えていますか
- 7-27 活動中のペースを確認していますか（ペースが速すぎ貧血や熱中症で倒れることがある）
- 7-28 休憩ポイントなどで人数を確認していますか
- 7-29 活動中における服装の乱れに注意していますか
- 7-30 参加者の疲労具合を把握していますか
- 7-31 雨具の着用について指導していますか
- 7-32 トイレがある場所を周知していますか
- 7-33 グループを離れる場合、必ずスタッフに伝えることを周知していますか
- 7-34 緊急のトイレなどで隊列を離れる場合、離れるときと帰ってきたときに必ず指導者に報告するよう注意していますか
- 7-35 自由時間（昼食など）での行動範囲を周知していますか
- 7-36 参加者が互いに交流する自由な時間が用意されていますか
- 7-37 活動中におけるゴミ処理の方法について説明していますか
- 7-38 活動中の指示・連絡方法についてスタッフ間で確認していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営—3）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（終了時）

- 7-39 子どもたちの作品がある場合、その評価を行っていますか
- 7-40 参加者から感想や意見などを聞いていますか
- 7-41 活動中におきたヒヤリ・ハットの事例をスタッフから聞き、記録していますか
- 7-42 活動終了のメッセージを伝えていますか
- 7-43 施設や備品などの後始末について確認していますか
- 7-44 使用後の装備、器具について点検し、メンテナンスしていますか
- 7-45 活動後のスタッフミーティングを実施していますか
- 7-46 施設や備品などを損傷した場合、管理者に届けていますか
- 7-47 協力者や関係者に活動終了の報告をしていますか

事故発生時の対応

森林体験学習活動安全管理チェックシート（事故発生への対応）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

（事故発生時）

- 8-1 事故の発生を統括責任者に連絡しましたか
- 8-2 被災者のケガの状態を確かめ、応急手当をしましたか
- 8-3 被災者の移動が可能な場合、被災者を安全な場所に移動させましたか
- 8-4 他の参加者を安全な場所に誘導しましたか
- 8-5 救助者の安全を確保したうえで、被災者を救助しましたか
- 8-6 被災者のショックを和らげる励まし（声かけなど）を行いましたか
- 8-7 被災者の保護者又は家族に事故発生情報を速やかに連絡しましたか
- 8-8 重大な事故の場合、関係機関に搬送、救助を依頼しましたか
- 8-9 自分たちで搬送する場合、役割分担を決めていましたか
- 8-10 警察の事情聴取やマスコミへの対応者を決めて対応しましたか
- 8-11 事故現場の保全（写真、ビデオ撮影）をしましたか
- 8-12 事故発生後の対応状況について記録をとりましたか

（事故のケア）

- 8-13 被災者の保護者・家族に事故経緯や処置状況などをきちんと説明していますか
- 8-14 被災者の回復状況など、その後の経過について把握していますか
- 8-15 保険会社や弁護士に事故発生や経過を連絡し、指示を受けていますか
- 8-16 傷害保険の請求手続きを速やかに行っていますか
- 8-17 重大な事故の場合、他の参加者やその保護者・家族に対して事故の説明をしていますか
- 8-18 世話になった関係機関に対して、謝意（礼状など）を述べていますか
- 8-19 事故の発生状況や対応状況を記録していますか
- 8-20 事故に関する報告書（発生原因、対策など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（事後の評価）

年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数
年	月	日	曜	記入者名	できなかった項目数

- 9-1 参加者が子どもである場合、後で保護者からの主催者が意見をもらっていますか
- 9-2 活動に関する報告書を作成していますか
- 9-3 活動に関する収支決算書を作成していますか
- 9-4 活動プログラムの計画と実施の差異について検討していますか
- 9-5 予算と決算の差異を分析し、対応策を検討していますか
- 9-6 事件事例を分析し、その処置方法について検討していますか
- 9-7 ヒヤリ・ハットの事例を分析し、改善策について検討していますか
- 9-8 主催者に活動結果と改善点について報告していますか

森林体験学習活動

安全管理チェックシート（初版）

（参加者に子どもが含まれる場合に適用）

本冊子は、全国緑化推進委員会連絡協議会及び公益社団法人国土緑化推進機構が、平成 27 年度国土緑化推進機構 緑と水の森林ファンド事業で作成（FIJ も参画）発行した“子どもたちと森”のステキな出会いのために 森林体験学習活動を安全に行うための Q&A 及び別冊の安全管理チェックシートを基に作成したもので、今後も必要に応じて改訂する予定です。

初版発行：2016 年 11 月 30 日

非売品

編集・発行 一般社団法人日本森林インストラクター協会（略称：FIJ）

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6 階

TEL/FAX 03-5684-3890

Mail: jim@shinrin-instructor.org
